

令和7年8月22日

印旛地区教育研究集会
令和7年度

国語科「読む」分散会提案

研究主題

読みを生かして、表現することのできる児童の育成

～目的を明確にした言語活動の工夫を通して～



成田市立遠山小学校

1 研究主題

読みを生かして、表現することのできる児童の育成

～目的を明確にした言語活動の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

令和2年度から実施された国語科の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。」である。

平成28年12月21日の中央教育審議会答申では、「全国学力・学習状況調査等の結果によると、小学校では、文における主語を捉えることや文の構成を理解したり、表現の工夫を捉えたりすること、目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることなどに課題がある」と示されている。

国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。また、このような資質・能力を育成するためには、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要である。

言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。言語活動を通して、正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指して本主題を設定した。

(2) 本校の教育目標の観点から

本校の教育目標は「育て駒っ子 かしこく やさしく 健やかに」である。目指す児童像の一つとして、「自分の考えをもち、学び合うことができる子」「思いや考えを認め合い、協力し合える子」「自らチャレンジし、あきらめない子」を掲げている。

国語科の学習で読みを生かして表現し、多様な考えを共有して認め合う活動、相手や目的を意識しながら、粘り強く学び続ける活動が、本校教育目標の「かしこく やさしく 健やかに」の実現につながると考える。

(3) 児童の実態から

本校は、全校児童24人の小規模校である。複式学級もあり、児童は学年を越えて明るく仲良く過ごしている。学校林「駒の森」を有し、自然豊かな環境のなかで落ち着いて学習に取り組んでいる。学習意欲はあり、令和6年度に行った意識調査から国語科の学習を好む児童が7割いることがわかった。

しかし、数年来の成田市学力調査では、国語科の「知識・理解」「思考・判断・表現」の

正答率が、多くの学年で下回る結果が課題となっていた。また、授業中、問題文を読んで自分で理解しようとするよりも前に、教師に何を問うているかを聞いてしまう児童も見られた。

国語科の学習指導に限らず他教科でも、表現力、言葉に着目する力に課題があるため、語彙の乏しさや自分の考えや思いを相手に伝えることがスムーズにできない場面が多く見られた。加えて、文章や言葉の意味を正確に理解できないため、読みが浅く、想像の幅が広がらない。

正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するために、筆者の考えや登場人物の思いを読み取る手立てを工夫すれば、児童が疑問に思ったことを探究し、それを他者に伝える方法を見いだし表現することができると考えた。

そこで、本研究では、言語活動を工夫することで、自分の考えや思いを表現すること、学習課題解決に必要な知識や技能を身に付けさせることをねらいとして、本主題を設定した。

(4) 研究主題の捉え方

「読みを生かして表現することのできる児童」について、本校では次のように捉える。

- ・自分の解釈を明確にし、深めていくために、意欲的に文章を読み、互いに考えや根拠、解釈を聞き合ったり話し合ったりする児童。
- ・読んで得た知識や感じたことを、自分なりの文章や朗読などで表現できる児童。

3 研究仮説

仮説1 相手や目的を意識できるよう言語活動を工夫すれば、伝えたい思いが高まり、学びを実感することができるであろう。

【視点①】相手意識・目的意識をもたせるような単元の工夫

○単元計画を工夫し、魅力的なゴールの提示 ○めあて、まとめ、学習課題の適切な設定

○学年に応じた目標設定

学年	言語活動例	発達段階に応じた指導上の留意点	
低学年	感想の交流	身近な経験を十分に想起させる。	心に残ったところとその理由を話す。
	吹き出し作り		自分ならどう言うか考えて書き、交流する。
	音読劇		自分で台詞を付け加える。
中学年	手紙	内容理解を意識して感想や考えをもたせる。	登場人物の気持ちに共感する。
	感想の交流		登場人物の性格について考えたことを話す。
	物語の続き		自分ならどうするか考えて続きを作る。
	ポスター		内容の説明と作品の魅力を伝える。
高学年	本の帯	文章全体を理解して自分の考えをまとめ発信させる。	印象に残る一文(引用)とその理由を書く。
	感想文		物語を読んだ自分の気持ちや考えの変化を書く。
	ポップ作成		主題や人物像を捉え、これからの自分について考えたことを話す。
	ブックトーク		主題を捉え自分と関わらせて紹介する。
			本の魅力を自分と関わらせて紹介する。

仮説2 言葉に着目し、情景や心情を読み取る手立てを工夫すれば、正確に読み取ることができるようになり、読みを生かして表現することができるだろう。

【視点②】正確に理解させるための指導法の工夫

○ペア・グループトークの積極的な活用 ○ワークシートの工夫

○朝のドリル学習

○書き取り（課題文を正確に読み取り意見文を書く）

【視点③】読みを生かした表現を生み出す工夫

○ゴールとなるモデルの提示、例示 ○朝読書 ○本紹介、並行読書 ○司書との連携

4 授業実践

第2学年の実践（令和7年度実践）

単元名 じゅんじょに気をつけて、二つのつながりをかんがえよう「すみれとあり」

＜単元における言語活動＞

読み進めてわかったすみれとありのつながりをペープサートで1年生に発表する。

「すみれとあり」は、すみれの花が意外な場所に咲いていることを取り上げ、すみれがなかまを増やしていく仕組みを解説した文章である。児童は、初めに、すみれが種を飛ばす様子に、次いで、ありが種を運んでいく様子に着目しながら、その二つが結びついて問いが解明されていく過程を体験する。1年生の教材とは異なり、すぐには答えが示されず、問いを解明していく過程が述べられている。単に答えを示せばすむものではなく、「なぜそうなるのか」「詳しいことはどうなのか」などを述べる必要がある。

【視点①】相手意識・目的意識をもたせるような単元の工夫

- ・本文を読み取る意欲をもてるように「すみれとありのペープサート」作りという言語活動を設定する。
- ・学習内容をわかりやすく相手に伝えるという目的意識をもたせる。
- ・1年生に伝えるという相手意識をもたせる。



【視点②】正確に理解させるための指導法の工夫

- ・「すみれとあり」の説明の文を作る際に大事な文章を選んだり、大切だと思う言葉を絞ったりしやすくさせるために本文にサイドラインを引かせる。
- ・「すみれ」と「あり」、それぞれで事実を整理させるために、ステップチャートを活用する。
- ・視覚的に順序を確認するために、本文と写真を照らし合わせて読ませる。
- ・ステップチャートで整理した内容を確認するためにペープサートを活用する。



【視点③】読みを生かした表現を生み出す工夫

- ・ペープサートで発表するための例を指導者が見本として見せる。
- ・表現の文型となるモデルを提示する。
- ・すみれとありのつながりがわかる文を書くことが難しい児童にはヒントカードを提示する。

すみれはくしている。
ありはくしている。
すみれとありはくしている。

(表現の文型モデル)

ヒントカード

- ・すみれは、なかまをふやすためにいろいろなばしょにめを出す。
- ・すみれは、たねを近くのじめんにしかとばせない。

この文を入れて書いてみよう。

(ヒントカード)

第3学年の実践(令和6年度実践)

単元名 物語のせかいをそうぞうしよう「紙ひこうき、きみへ」

<単元における言語活動>

キリリが旅行かばんを手に歩き出した時の気持ちを想像して物語の続きを書き、上級生に紹介する。

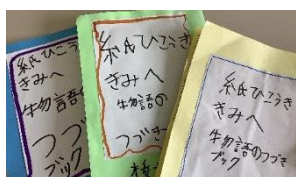
本学級の児童は、物語「白い花びら」で意欲的に読んだり読み取ったことから考えたことを書いたりしていたが、語彙が乏しく、細かな描写まで着目させることができなかった。

「紙ひこうき、きみへ」は、キリリとミークという対照的な生活をしている二人のりすが出会い、心を通わせ、別れていくという物語である。二人の性格や考え方など具体的な叙述から、「違い」に着目させて読むことで、臆病で慎重な性格のキリリの変容や、好奇心旺盛で行動的な性格のミークとの関わり方を丁寧に読ませようと考えた。

【視点①】相手意識・目的意識をもたせるような単元の工夫

- ・物語の続きを書いて、紹介するという言語活動を設定する。その際、展開の方向性は「臆病な性格のキリリが意を決してミークを探しに行く」とする。
- ・小規模校のよさを生かし、すべての上級生に物語の続きブックを読んでもらうという相手意識、目的意識をもたせる。

(ブックの最終ページに書かれた感想)



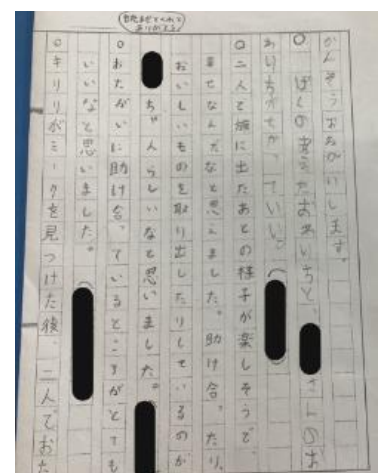
(物語の続きブック)

「紙ひこうき、きみへ」のつづき

キリリはミークに会いたい気持ちでいっぱいになるとミークをさがしにいきました。古い旅行かばんの中に入っている、ミークがくれた紙ひこうきを大切にしながら、ミークをさがしていました。そしてキリリは、「まだミークはほくのことをわすれていない!」と、思ったそのときでした。ミークがキリリの後ろからせなかをたたきました。「きみ、キリリ?」

キリリはびっくりしました。まさか、ミークが後ろに立っていると思うとキリリはうれしくてうれしくてたまりません。そのあと、二人で旅のつづきを楽しみました。けがをしたら、おたがいだすけ合ったり、おなかすいたときはミークのリュックサックの中からおいしいものを出したりしました。キリリとミークは、旅をつづける今のくらしがとっても気に入っているのです。

おわり



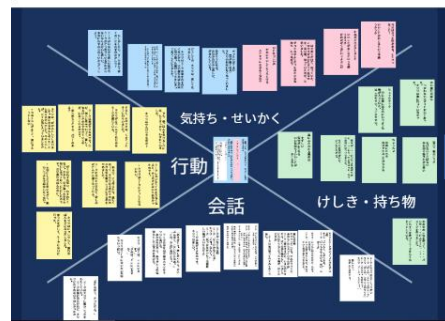
(物語の続きブックの内容)

【視点②】 正確に理解させるための指導法の工夫

- ・心情のわかる言葉や表現を見つけ、整理しやすくするために本文にサイドラインを引かせる。
- ・登場人物の心情を、行動描写、心情描写、情景描写と会話文から読み取り、タブレット端末の情報共有アプリにそれぞれ色分けして整理させる。
- ・キリリとミークの性格の違いや関わり方をワークシートにまとめる。その際、根拠をもって自分の言葉で表現できるよう、本文と色分けした心情カードを照らし合わせる。

(心情カード)

(カードの一部)



・前へ進もうとする、パワーのある子

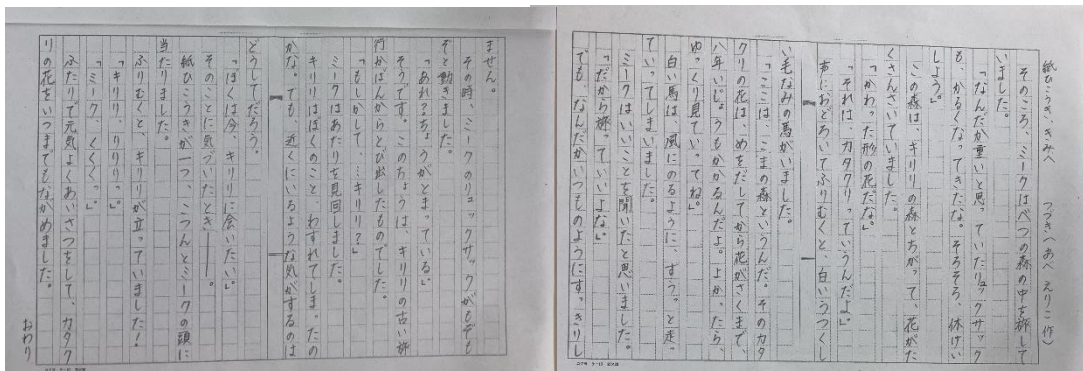
ミークは旅が好きなのです。日び、前へと進んでいって、新しくなるけしきの中で生きていくのが、にあっているのです。

キリリは、ぼかんとしてしまいました。旅に出るなんて考えたこともありませんでした。今のくらしが、とても気に入っていましたから。

・今のくらしがよくて、旅にでようとしません

【視点③】 読みを生かした表現を生み出す工夫

- ・教師が書いた物語の続きをモデルとして児童に提示し、ブックのイメージをもたせる。



- ・並行読書として「紙ひこうき、きみへ」の本編や、動物が主人公の本を読み、児童に本教材への興味をもたせ、表現方法の違いに気付きやすくする。

「紙ひこうき、きみへ」の本には教科書にのっていない物語の続きが書かれているね。どんなお話なのかな？ ほかの考えた物語の続きと似ているかな？

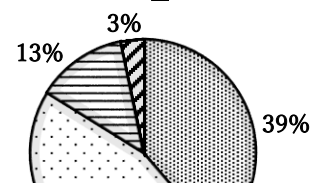


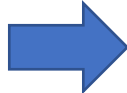
第6学年の実践（令和7年度実践）

単元名 表現が読み手にあたえる効果について考えよう「川とノリオ」

<単元における言語活動>

優れた表現が読み手に与える効果について考え、自分の思いをもって下級生に朗読をする。





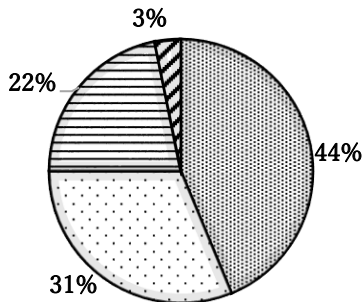
○他学年の児童や家族に読んでもらうという目的意識・相手意識をもたせることで、意欲的に学習に取り組み、読むことを楽しめたことから、国語の学習を好む児童が増えた。

最後にはみんなで見あそびお母さんや父さんにも
みせると感想が書いてくれました。

あなたか言葉ももらったお礼はあったなと思いました。
これからみんなに読んでほしいような文も書いていきたい
と思います。

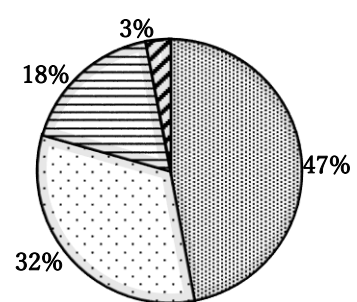
本を読むことは好きですか。

■好き □どちらかというときき
■どちらかというときらい ■きらい



本を読むことは好きですか。

■好き □どちらかというときき
■どちらかというときらい ■きらい



○並行読書を行うことで、本文だけでなく関連する本を読むことで関心が高まり、読書を好む児童が増えた。

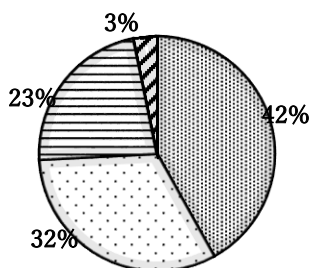


「紙ひこうき、きみへ」を教科書で読んで、物語の続きを考えてブックにしました。並行読書で本を読んで自分の考えたお話とちがうと思ったけれど、楽しんで読めました。(3年児童)

並行読書で同じ作者の物語を読むと、ファンタジーの世界をもっと楽しむことができました(6年児童)

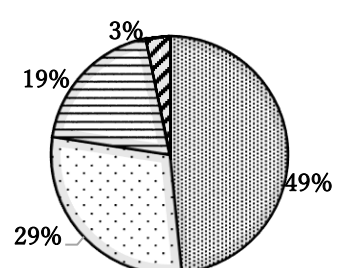
本で調べたことを生かして、クイズにしたり、新聞にして伝えることは好きですか。

■好き □どちらかというときき
■どちらかというときらい ■きらい



本で調べたことを生かして、クイズにしたり、新聞にして伝えることは好きですか。

■好き □どちらかというときき
■どちらかというときらい ■きらい



○新聞やブック、リーフレットを書く際に、本文をじっくりと読み、伝わりやすい言葉や表現

小見川青少年自然の家のこと、リーフレットをかに
みて、最終的にはなになにをどうやって書く、となんか書いてみた。
●先生や友達のアドバイスをもらい、リーフレットの書き方が

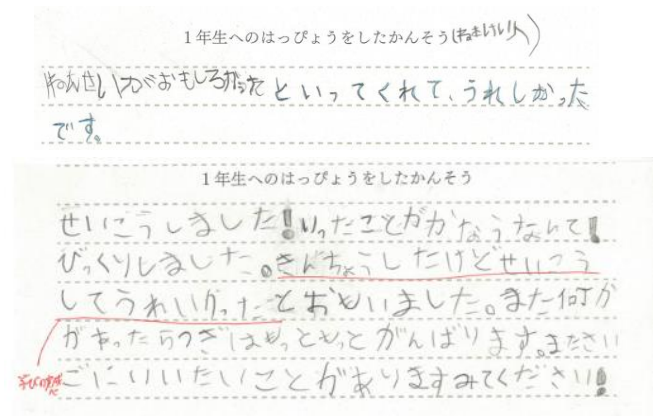
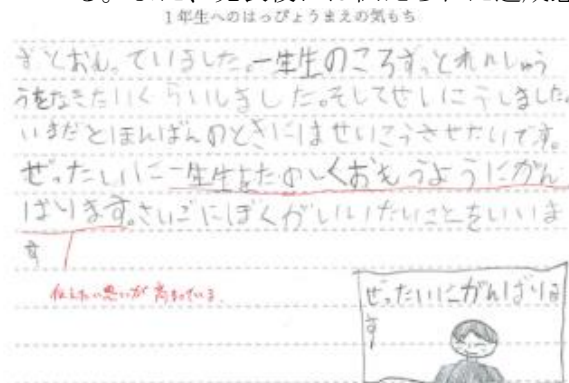
方法などを普段より試行錯誤しながら考えていたことにより、読みを生かして表現することを楽しむ児童が増えた。

②抽出児の変容

<2年A児・B児>

○1年生に発表したことによる意識の変化

発表前には学習したことを伝えたいという思いの高まりやわくわくした気持ちが表現されている。また、発表後には伝えられた達成感が見られる。



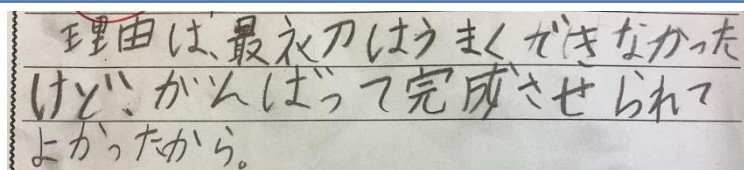
<3年生C児>

○物語の続きブックを書いたことによる意識の変化

文章を書くことに苦手意識があり、作文を書くのに時間がかかった。「ええと、どうしたらいいかなあ。こうかなあ。」と呟き、教師の助けを待つ様子も見られた。

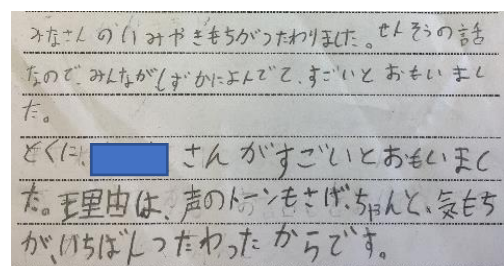
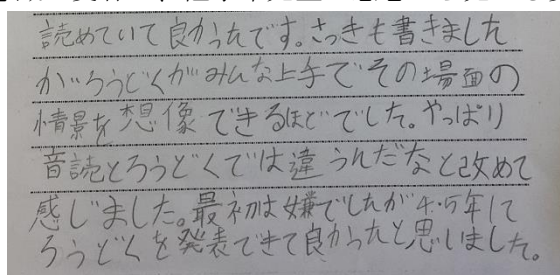
物語の続きブックに読んだ児童が感想を書き、6年生が届けにきて感想を伝えてくれたことで、学びの実感がわき、表現することに喜びを感じるようになった。

みんなが書き込んでくれた感想を読むと、ぼくの物語を楽しんで読んでくれたことがわかってとっても嬉しかった。ブックを書いて、全校のみんなと関わってよかった！



<6年生E児>

○意識の変容と、他学年児童の感想から見える変容



【視点②】正確に理解させるための指導法の工夫

< 2年A児・B児 >

○正確な読みが表れた表現

ペープサートの発表で、本文から読み取ったことを擬音語にして伝えることができた。

(本文)

よく晴れた日に、みは、三つにさけてひらきます。(A)
そして、みの中から、たねがいきおいよくとび出します。(B)
とび出したたねは、つぎつぎと近くの地面におちていきます。(C)

(児童の表現)

ぱかっと、すみれの花がさきました。
ぱかん、すみれのみが3つにさけました。(A)
ぽんぽんぽん、すみれのたねができました。(B)
しゅんしゅんしゅん、すみれのたねがとびだしました。(C)

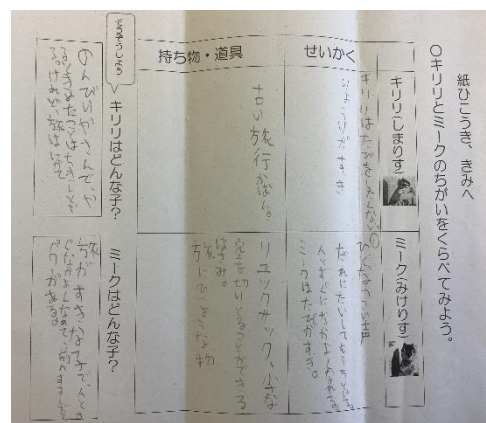


< 3年生D児 >

○ワークシートに見られた読み取り

上級生に読んでもらうためには、登場人物が別人のような性格になってはいけなくて、様子や行動、気持ちや性格を表す語句に注目させた。

使われていない古い旅行かばんと必要な物だけ入っているリュックサック、出会いのメッセージを運ぶ紙ひこうきと、自ら大空へ飛び立つちょうちんのように、慎重なキリリと行動的なミークの性格が表れている部分を対比させて考え、まとめることができた。

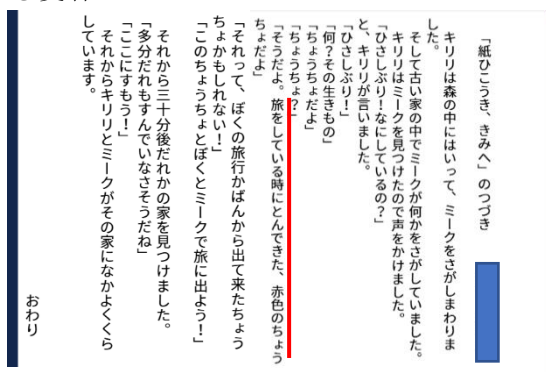


【視点③】読みを生かした表現を生み出す工夫

< 3年生D児 >

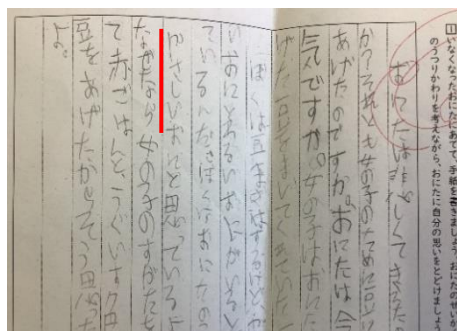
○物語の続きブックに表現された文章に見られる変容

会話文を使い、登場人物たちのやりとりを表現している。ちょうの描写(サイドライン参照)も詳しくなっている。



○別の物語文の学習で見られた文章

読み取ったことをもとに、主人公への思いを



以前よりも細かく書くことができています。

理由も、「なぜなら」以降に表現することが
できている。

6. 成果と課題

研究主題 読みを生かして、表現することのできる児童の育成
～目的を明確にした言語活動の工夫を通して～

【成果】

○職員が児童自身の言葉で表現させることを意識した指導を行ったことで、児童の中で、擬音語や朗読の際の間や抑揚など相手に伝えたい思いをもって表現しようとする意識が見られるようになった。

仮説1 相手や目的を意識できるよう言語活動を工夫すれば、伝えたい思いが高まり、学びを実感することができるであろう。

【成果】

○相手意識や目的意識をもたせたことで、読み取ったことを生かしてブックやリーフレットを作ろうという意欲が高まった。

○完成した作品に対して、肯定的な感想をもらったことで、児童の国語科学習に対する興味関心が高まり、言葉を通じて交流がもてたことがよかったと感じる児童が増えた。

【課題】

▲言語活動として、児童の資質・能力を効果的に高める題材の工夫、開発がさらに必要である。

仮説2 言葉に着目し、情景や心情を読み取る手立てを工夫すれば、正確に読み取ることができるようになり、読みを生かして表現することができるだろう。

【成果】

○単元ごとに言葉に着目する手立てをとったことで、本文に書かれた内容を押さえることができるようになってきた。

○本文に書かれた内容や並行読書で得た知識や感じたことを、自分なりの文章や朗読、擬音語などで表現することができるようになった。

【課題】

▲単元ごとに児童の実態を見ながらヒントカードやワークシートを用いるなどの支援をした。苦手意識を軽減させることができたが、自分で文を表現することへの支援を続ける必要がある。

▲令和6年度の実践では、ブックやリーフレットなどをタブレットに打ち込んで作成することが多かった。内容を打ち込むだけでなく、文章化するヒントとなる良質な手本・モデルが必要である。